

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、基本方針を踏まえた上で、グループホーム特性を考慮した独自の理念を掲げ、その理念を念頭に年次事業計画を策定し、管理者と職員は日々の業務の中で理念を共有し実践に向けて取り組んでいる。	法人の理念を踏まえグループホーム独自の理念を掲げられ、それをもとに事業計画を作成されています。新人の方にはオリエンテーション時に、職員には業務中に理念を共有し実践につなげられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和3年4月に引っ越し、コロナ禍でもある為地域との交流はまだ無い。運営推進会議で町会長に出席して頂きグループホームの取り組みなど説明している。	現在はコロナ禍の為ボランティアや地域に向く事は中止していますが、職員は町内会の集まりに参加されたりされています。また、コロナが治まれば以前同様の交流が出来るよう取り組まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	泉佐野市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟、事業所の機能を発揮している。また、運営推進会議で認知症勉強会を実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催しており、家族も毎回交替で参加して頂き、活発な意見交換を行っている。また、利用者や家族からの改善に向けた意見を職員全員に周知している。(コロナ禍の為利用者の参加は中止)	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、市の職員や町内会会長、ご家族に参加して頂き行われています。報告や活発な意見交換が行われサービスの向上に努められています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議における行政関係者の参加に加え、必要に応じて地域包括支援センターや市の職員との情報交換や交流をはかっている。	市の職員に運営推進会議に参加してもらい他に、必要に応じて情報交換や交流を行い、何かあれば相談出来る体制を整えられています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	高齢者複合施設の3階にグループホームがある為、そこに通じるエレベーターは暗証番号表示の上、電子ロックされている。鍵をかけない暮らしについて、行動制限廃止並びにリスクマネジメントの観点から職員間で話し合いを行っている。また事業所として、身体拘束の排除の取り組みに関して定めた理念、方針等がある。	ホームの玄関は基本施錠されていますが、利用者の行動に対し無理強いせず柔軟に対応されています。身体拘束に対する指針や委員会も月1回行われ、会議の内容を職員に周知し身体拘束しないケアに取り組まれています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体の人権研修において、高齢者虐待防止を盛り込み、合同研修会を実施し、虐待防止について学んでいる。また、日常の介護について振り返る研修を行い、業務においても注意を払っている。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>人権研修で学ぶ機会を設けている。また、対象の方へは活用が出来る支援を行う。</p>			
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居相談の段階より面接を行ったり、グループホームアマリタでの生活を見学して頂き納得されてから、書面による説明を経て、契約に移行している。退所時は本人及び家族が方針を決定するための相談をし、納得されて退所している。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的な要望の聞き取りから、意見箱の設置等お行っている。運営推進会議においては本人と家族に参加して頂き、外部に意見を発信して頂けるように進行し、活発な意見交換がみられる。</p>	<p>利用者に対しては日々の関わりの中で意見を聞き、ご家族に対し年1回アンケートを実施しや月に1度の電話連絡などで出た意見をサービス向上委員会にて話し合わせ、結果についても報告し運営に反映されています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>職員主体のグループホーム会議を行い、職員の意見が反映しやすくし、日々の業務で活かしながら運営参画意識を持って貰っている。</p>	<p>日々の会話の中や月1度の会議にて職員の意見をくみ取り、またパソコンに意見や提案を打込む所があり、職員の意見を柔軟に聞き運営に反映されています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度導入により、職員の努力が待遇に反映される仕組みとなっている。また、内部、外部研修参加の機会を設け、職員個々のスキルアップを図るなど向上心に込めている。なお、代表者は近隣ホームの待遇面の情報収集を行い向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>人事考課制度における人事考課表の活用や個別面接等において職員個々の力量を把握し、個人が目標説明をし、やりがいや達成感を持てる機会を与えている。また、他事業所の研修を行い職員のスキルアップ向上を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループ内の他グループホームとの合同委員会や行事を実施している。 (一部コロナ禍の為中止)</p>		

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間中から面接を行い、希望があれば本人にもグループホームの見学を行って頂き、本人と対話するなど、顔なじみの関係を構築できるように努力している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	待機期間中においても定期的に家族に連絡し相談に応じている。また、主介護者以外も希望があれば面談を行い介護者の質問や相談に応じるなど信頼関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	安易に入居を勧めるのではなく、相談内容を踏まえてニーズを探り、必要に応じて法人が経営する各種介護施設、在宅介護サービス並びに他の事業所、公的なサービスなどと連携し対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでの日常生活全般を入居者と共に行い、職員は共に生活を送っている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	個別外出支援で利用者や家族の希望に添った外出先に行き（コロナ禍の為中止）、一緒に思い出を作る機会を設けている。また、お便りの発行で、ホームの様子を伝えながら、家族と共通の話題作りをしながら家族との関係性に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者ごとに担当制を決め、本人や家族から情報収集を行い、行きたい所個別支援を実施するなど本人の馴染みの場所を大事にしている。	現在はコロナ禍で行われていませんが行きたいところへ個別の外出支援がおこなれてたり、電話や年賀状・暑中見舞いなどを送られ関係が途切れないよう支援されています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活においても、一人一人が孤立しないよう、個別にニーズや役割がもてるよう支援している。また、利用者同士が支え合いながら生活している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても家族から連絡や相談があれば、できる限りフォローし支援している。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活全般で個々のニーズに対応出来るよう、本人や家族の希望や意向の把握に努めている。また、身体面で重度になった場合においても、可能な限り、グループホームでの生活が出来るように多職種連携を図り取り組んでいる	入所前に本人・家族と話し合わせ、また日々の関わりの中から思いや意向を聞かれています。またライフヒストリーを使用し入所後も家族の協力のもと、希望や意向を聞き把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	待機期間中から面談を行い、情報収集を行っている。また入居時には生活歴やホームでの生活における希望を聞くなど把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察を個別の支援経過に記録している。また入居者の心身の変化については、変調の早期発見の為に朝の申し送り後にバイタルの確認を行い状態について確認している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やグループホーム会議を行い、多くの意見を収集し、アセスメントに基づき一人一人の生活機能に合わせた個別支援計画を行っている。	担当者を中心にモニタリングは月1回、介護計画は6ヶ月に1回又は変化があれば随時行われています。ご家族には電話にて意見を聞き、PT・OTにもアドバイスをもらいながら現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過記録以外にも日々の申し送りにより情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。また、グループホーム会議においてもケア内容についての話し合いを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	YouTubeの高齢者向けコンテンツを活用した音楽体操や介護予防体操を実施し運動量の増加に努めている。また、回想法や懐メロ番組なども活用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前に活用していた社会資源を把握し、個別外出支援の際に訪問するなど、生活の継続性を尊重している。なお、ホームとしては地域ボランティアや慰問等の受け入れを行い、入居者の楽しみの支援につなげている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談の上、受診や往診の医療機関を選択してもらっている。また、かかりつけ医と関わりが薄い入居者には佐野記念病院や栄公クリニック往診で対応している。	基本的には協力医療機関の受診となっているが、家族や本人の希望のかかりつけ医への受診が可能です。また通院介助も行われており、診察内容も適切に報告されています。24時間コール対応もされており、家族からの安心感を得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	同グループの訪問看護ステーション ナース栄公より訪問あり。緊急時のみならず普段から相談、応援してもらえる関係である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院治療が必要な場合は病院に付き添い、入院の準備手続き、情報提供を行っている。また、入院時にも面会し、医師とのカンファレンスにも参加し安心できるように支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の説明時にホームの方針を伝えるとともに、入居後は運営推進会議など家族との意見交換の場において方針を繰り返し説明し、理解を得ている。なお、実際に入居者が重度化した場合は、医療機関や他の施設入所サービス事業者など関係機関と連携し、不安を取り除くよう支援している。	入居前より方針意向の確認がなされ、入居後も話し合う機会にその都度説明している。ホームでの生活が難しくなった場合には、特養の紹介や家族の希望する医療機関等と連携し、本人・家族の望む終末期ケアに取り組まれている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修の一環で救命救急の研修を実施し、心肺蘇生等について学んでいる。またグループホーム内の勉強会においても急変時の対応について学習している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練及び、BCP委員会（災害・感染症）を毎月行い意見交換を行っている。	年2回、防災会社の立会いの下、水消火器を使い実践的な消防訓練を実施している。またBCPも策定され、災害時でもケアを継続できるよう態勢の強化に取り組んでいます。	運営推進会議等での町会との関係を活かし、地域との交流を深め、非常災害時の協力体制を今後築いていかれることを期待します。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員は利用者を人生の先輩として尊重し、なじみの関係であっても言葉遣いや対応には誇りやプライバシーを損ねることをないように徹底している。また毎月開催する行動制限廃止会議やCS委員会では職員の接遇、言葉遣いについての話し合いをしている。</p>	<p>見学の中で、利用者一人ひとりを尊重した丁寧な言葉遣いで、声かけの際は声の大きさやタイミング・場所などに配慮しプライバシーを損ねない対応をされている様子が確認できました。また、定期的な研修も行われています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員と入居者のコミュニケーションを増やしなが、本人の思いや希望を表出出来る場面を提供している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日常の日課の中で、その人の生活ペースに合わせた声掛けを行っている。行事の参加においても希望を尊重している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>1ヶ月に1度は訪問美容にきてもらい（コロナ禍で不定期）、本人の好み髪型になるよう支援している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や片付け、入居者の能力に応じて職員と一緒にやっている。また、食事の形態や量も個別の嗜好に合わせ、楽しく食事が食べれよう配慮している。</p>	<p>調理は栄養課が行っており、ホームでは盛り付けと配膳のみとなっている。入居者にはテーブルを拭くなど、できることで食事に関わりを持っていただいています。また、月1回の松花堂弁当やおやつクラブなど食を楽しむ取り組みを実施されています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事は管理栄養士に計算された物を提供している。その方のペースに合わせながら、できるだけ、ご自身で食べることができるよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>専門医との連携を行い、口腔衛生管理に係る指導及び技術的助言に基づいた評価を行い口腔衛生管理の充実により、入居者の生活機能の向上を図っている</p>		

43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>一人ひとりの排泄能力と自尊心に配慮し、また排泄記録を取りながら、個々の排泄リズムを理解し、希望に応じてトイレでの排泄を心掛けている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握し、一人ひとりの希望や能力に合わせたきめ細かい対応を行っている。現状おむつの使用はなく、トイレでの排泄を大切に取られています。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘薬の使用調整は医師と相談しながら、負担のないようにしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>週2回、個々に合わせた入浴の支援をしている。</p>	<p>浴室には福祉用具が完備され、安心して入浴できる設備が整っている。入浴拒否時には無理な促しは行わず、タイミングや職員を変える等、対応の工夫をし柔軟な支援を行っている。また、ゆず湯や菖蒲風呂など楽しみを持てる機会もあります。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>個々の居室の室温管理や照明は1人ひとりの好みに応じ対応している。夜間不眠時は無理に入眠を促さずに可能な限り職員と一緒に過ごし安心してできるよう支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>定期的な受診や往診時には症状の変化を記録し、医師、看護師に情報提供し、服薬の調整を行っている。また処方薬に変更があった際は、情報共有を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>音楽体操や介護予防体操の実施により運動不足を解消するとともに気分転換を図っている。テラスなど外気にふれる機会もある。また、針仕事などをする事で潜在能力の刺激になっている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日常的な外出の希望については重度化に伴い減っている方もあるが、家族や地域の協力を得ながら、行きたい所に個別で外出支援している。(コロナ禍の為中止)</p>	<p>コロナ禍で、外出に制限のある中、新聞を取りに出たり、テラスにて花の水やりやテーブルを出してお茶をするなど、ホーム内で可能な限り本人の希望に添えるような支援をされています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ禍の為買い物や外食の支援を見合わせている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族希望で携帯電話を所持され、定期的に家族への電話連絡を支援している方もいる。郵便物の管理を職員と行い、はがきなどのやり取りができるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>全体的に窓が大きく採光もよく開放感のある環境である。また居心地よく過ごせるように空調管理を行っている。</p>	<p>大きな窓から温かな光が差し込む開放感あふれるフロアでは、入居者同士が交流できる様、テラスを眺める位置にソファを配置するなど、居心地の良い空間作りがされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者同士が困って話ができるように、リビングにソファを配置している。居室やテーブル席、ソファ席等、自由に過ごして頂けるようにしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族と相談しながら、その方の状態や好みに合わせた居室づくりをしている。また、各居室の環境管理及び整備を行い事故回避に努めている。</p>	<p>白を基調とした清潔感のある居室で、自宅ですべて使っていた家具や馴染みの物の持ち込みが可能となり、居心地よく過ごせる居室となっています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>職員が過剰な対応するケースがある。一人ひとりへのアセスメント能力を向上し、その人らしさを支え過剰な介護とならないようにする。</p>		



## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています		①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない